大津のことが もっと好きになる情報誌

# 広報 おおづ

今月のみどころ

**特集** 熊本県立大学×大津町

## 復興へと向かう一歩

熊本県立大学・平成28年度学生ＧＰ（地域連携型卒業研究）の学生の皆さんが実際に大津町を歩いて作った地震の記録

**第28回からいもフェスティバルinおおづ**

秋晴れの中、今年もたくさんの人が会場を訪れました


12
DECEMBER 2016
町村合併60周年記念


Public relations OZU TOWN


広報 おおづ 2016 12

発行・編集■大津町・総務課
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津1233番地
TEL096(293)3111 http://www.town.ozu.kumamoto.jp/

※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。

印刷■ホープ印刷株式会社


UD FONT 見やすく読み まちがえにくい ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

震災当初は物資情報などが多かったページも今では復興に向けたイベントの情報や支援制度などの内容に様変わりしている

## Clozu-up Ozu-jin
クローズアップ 大津人

### 丸岡（まるおか） 広髙（ひろたか）さん（大津）

## 「みんなが手を取り合っていけば」

地震以降、インターネットを使って関東地方から大津を支援し続けている人がいる。今回はそんな丸岡さんをクローズアップする。

**熊本地震の一報。「大津の実家は大丈夫か」すぐに母と弟に連絡し無事を確認。**

ご近所の助けはあったものの、弟は災害対応で地震直後から仕事に出ざるを得ず、日中は母が自宅に一人で残ることになった。

「避難所はあるのか」「食料は大丈夫なのか」連日テレビで報道されるのは、県内でも比較的被害の大きかった益城町など。情報は来ない。一人で自宅にいるであろう母はどこに行けばよいのか。埼玉の自宅から母を思い、丸岡さんは行動を開始する。

偽情報に気をつけながらボランティアで大津にいる人から炊き出しや支援の情報をインターネットを使って集め、電話で母に伝える。

妻からの「他の困っている人にも伝えてあげたら」の一言で大津の災害支援情報が集まる場所をインターネット上に作ろうと思い立つ。ここまでが本震からわずか1日の出来事。東日本大震災の経験が、体を突き動かす。

「食料手に入れました。ありがとうございました」と『見知らぬ誰か』からコメントが届き、良かったと胸をなでおろす。「町外にいたことで不安や無力感もあったが、結果的に私にしかできない支援ができた」古くからの友人にも被災者は少なくない。友人から出てきた言葉は前向きな「どぎゃんかなる」だった。ただし、この言葉には前置きがあると丸岡さんは言う『みんなが手を取り助け合っていけば』。

「遠くにいても手伝えることはある。一緒に頑張れたらうれしい。」まぶしい笑顔だった。

## つうじの声

▼県立大学との連携はとても私にとって良い経験になりました。学生の皆さんも非常に意欲的に取り組んでいただいたのでうれしかったです▼クローズアップの丸岡さんは某ＳＮＳで町の支援を行っていただいています▼「町の情報を集めている人がいる」「ページがわかりやすい」という噂を知っていました▼実際に話を伺い、母親への愛と大津への愛を感じました▼丸岡さんのように町外から応援してくださっている皆さんのためにもこれからも頑張ります（IDEO）

## からいもくん便り

大津町総合情報メール

携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

QR コード

**登録方法**：ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください（スマートフォンの場合は件名に任意の１文字「あ」などを入力して送信）。